

福山大学 人間文化学部 令和元(2019)年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的

領域： 使命・目的、教育目的

2019年度

人間文化学部

中長期計画	学科長会議及び学部将来構想委員会で学科(大学院を含む)の将来構想を検討中であるが、人間文化学部の理念目的が根底から変わることはない。2016年度4月にメディア情報文化学科をメディア・映像学科へと名称変更を行ったが、これは元々メディア情報文化学科の理念目的として設定されていた、映像を含む多様なメディアへの対応という意味で、理念目的の変更ではない。ただし、心理学科においては、国家資格である公認心理師のカリキュラム発表と国家試験の内容を吟味して、学部・学科の理念目的をより細分化して具体化する必要がある。
	人間文化学部

2019年度

人間文化学部

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	人間文化学部は本学唯一の人文系学部として総合大学としての重要な役割を担っており、かつ現代社会の在り方を問う意義はより大きくなっていることから、人間と社会・文化を探求するという学部の理念は適切だと考えられる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した
達成度	A
改善課題	特になし
根拠資料	①2019年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	特になし。
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	3学科ともに、近隣大学の類似学科との差別化を図るための努力をしている。心理学科は国家資格である公認心理師養成大学とともに従来の臨床心理学に偏らない幅広い分野構成、人間文化学科は英米に限定されない外国文化、メディア・映像学科はフィールドでの映像表現を特色とする
年度目標	現状維持であるが、3学科の個性・特色が検討された場合は学部の個性・特色として調和するよう調整を行う。
年度報告	心理学科の公認心理師以外を目指す学生の教育目標の明確化の検討結果を待った。
達成度	A
改善課題	特になし。
根拠資料	①2019年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	各学科で検証したものを学部将来構想委員会、学部教授会において定期的に検証を行っている。平成27年度人間文化学部外部評価委員会の検討結果を考慮し学部HPで報告書を開している。
年度目標	現状を維持するが、学科で検討され、大きな変化がある場合は学部でも検討を行う。
年度報告	心理学科の細かな部分について検討が行われたのみであり、現状維持といえる。したがって、検討していない。
達成度	A
改善課題	特になし。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

人間文化学部

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	教育目的と3ポリシーは学部教授会で議論して承認している。教育目的と3ポリシーは、学生便覧等の印刷物、HPで参照できる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	特になし。
根拠資料	①3学科の学科会議議事録、学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	高等学校や社会一般に対しては大学要覧やHPにより広く公表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した
達成度	A
改善課題	特になし
根拠資料	①FUKUYAMA UNIVWESITY GUIDBOOK2019、大学ホームページ、学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	各学科で改訂が必要になった内容は、学部将来構想委員会、学部教授会において検証を行って中長期的計画にも反映できるようにしている。
年度目標	現状を維持

年度報告	現状を維持した(各学科から改訂の検討について報告はなかった)。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	教育目的と3ポリシーは、2016年度と2017年度(心理学科)の学科の3ポリシー改訂したが、その作業時に各学科長と教務委員とともに参照した。改訂が必要な際には同様の検証を行う。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した(各学科から改訂の検討について報告はなかった)。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	学部・学科の使命・目的および教育目的は、現代社会のこころの問題や文化・メディアの状況に適合したものである。また、心理学科では2018年度から始まる公認心理師養成大学として認定されるように組織している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ(福山大学組織(教学組織)、人間文化学部)
次年度の課題と改善の方策	

基準2. 学生**領域： 学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

中長期計画	学生の受け入れに関しては、学部教授会で入学定員充足率の80%台の必要性を強調しながら入試広報戦略を立てている。各学科の魅力、卒業後の進路を明確に示し、学科内容と強みである社会貢献について学外及び学内にもわかりやすく広報している。学部の受入学生数は増加傾向であるが、収容定員充足率に配慮して、過去の受験者数、入学手続者数、辞退者数の実績に基づいた定員管理を行っていく。
	学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応は、全学の方針に従って行っている。人間文化学部の独自性としては、学生サポート制度を導入して仲間同士が助け合う活動を推進している。学修環境の整備については、学生が自由に利用できる拠点づくり(ラボラトリーコンセプト)をここ数年間の課題としている。心理学科の29号館への移動とメディア・映像学科の19号館単独使用を機に、施設・設備の整備を進めている。人間文化学部についても魅力的な環境づくりとして人文学生研究室を整備した。特に、メディア・映像学科においては、鞆の浦での拠点型教育・研究施設の教育研究環境利用を目指す。さらに、心理学科では、2018年開始の公認心理師の国家試験に対応できる実習を中心とした施設を23号館に整備している。

中点検項目	2-1. 学生の受け入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	大学教育センター主導のもとに全学で行った教育目的と3ポリシーを学部HPで公開している。アドミッション・ポリシーは入試広報で活用・配布される紙媒体にも記載している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧、福山大学ホームページ(人間文化学部)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受け入れの改善に生かしていますか。
現状説明	受入れた個々の学生とアドミッション・ポリシーのミスマッチについては学科での教育活動や担任指導の状況から判断され、退学休学など学生異動や進級・卒業判定の場面で学部で共有し、意見交換を行っている。
年度目標	入学定員充足率が定員の1.2倍の180名を越えないよう、かつ、0.8倍を下回らないよう、AO・指定校入試入学者の抑制、歩留率等を検証する。
年度報告	指定入学試験について心理学科の受験者数を抑制した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①全学教授会(入試判定)議事録、②入学手続者表(入試広報室作成)
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	平成27年度外部評価の指摘を受けて、各学科の強みを伸ばして広報することで2019年度入学者が増加した。入学時に行う入学者アンケートで増減の分析を行っている。
年度目標	入試広報室参事からの聞き取りと入学者、辞退者の分析(高校名、地域、試験得点、辞退理由など)を行う。
年度報告	入試広報室参事会で提供される各種情報を学科長と共有し、入試判定方針の材料として活用した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①入試広報室参事会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	心理学科と人間文化学科の入学定員充足率は、それぞれ、134%と120%であり、ほぼ適切である。メディア・映像学科は82%であり、不足している。人間文化学部ではメディア・映像学科を中心に広報を行う等の対策をとっている、学科としての対策はメディア・映像学科の現状説明に記載。
年度目標	3学科が定員確保できるように学科の強みを活かした教育・社会貢献活動で広報しつつ、学科の入学定員充足率に基づいたAO・指定校入学者数の管理を行う。
年度報告	人間文化学科及び心理学科については適切な受入学生数を維持している。メディア・映像学科は不足があり、指定校推薦入試(芸術・メディア表現枠)を実施した。さらに、次年度の選抜試験において選択科目として実技試験の実施することとした。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①入試戦略委員会資料、②入試広報室参事会資料
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

人間文化学部

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	全学的な修学支援、生活支援、進路支援の方針に従っている。これらは学生便覧、HP等で学生(留学生を含む)、教職員、社会に公表されている。また、毎年開催される教育懇談会、就職懇談会では学生の保証人に対して、これらの詳細な説明を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科のホームページ、②学科会議議事録、③教育懇談会資料

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	TA等を活用している。TA、SAの活用状況については心理学科とメディア・映像学科で記載。メディア・映像学科では複数学年の合同授業により、先輩が後輩を支援する学修方式を採用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①心理学科及びメディア・映像学科の資料
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

人間文化学部

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	就職支援に関しては全学共通のキャリア教育、自分未来創造室、インターンシップなど、充実してきている。専門職への就職支援や進学支援は担任の教員が個別に指導している。なお、就職課と各学科就職委員は密に連携している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学部:学生便覧と学科別進路状況、心理学科:学科会議議事録、メディア・映像学科:令和元年度進路先一覧)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	就職希望者数、就職者数、内定率は大学HPで公開している。また、詳細なデータは就職課で入手可能であるが学修成果との関連などの分析は行っていない。
年度目標	就職委員と就職課と連携して学修成果と就職満足度との関係の分析を検討する。
年度報告	学修成果及び就職満足度の関連データ未収集。検討はできなかった。
達成度	B
改善課題	検証に必要な情報を3学科から収集する手順を確立する必要がある。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	各学科の検証情報を共有する。

点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	資格取得に関しては授業内容と関連の深い資格試験への受験料一部補助を行っている。インターンシップに関しては、公務員関係は教務課、企業等は自分未来創造室が「BINGO OPEN インターンシップ」で支援している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学科:学科HP、心理学科:学生便覧、メディア・映像学科:学科会議議事録)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。
現状説明	各学科の就職委員と就職課との情報交換は綿密に行われ相互に協力的であることから指導は適切だと考えられる。また、地元優良企業、大手企業の内定者も多く、内定率も高い率で推移している。
年度目標	内定時期を早めること、実就職率を90%台にすることを目指す。
年度報告	実就職率は82%(3月10日時点)となった。
達成度	B
改善課題	強い意志をもった就職希望者を増やす必要がある(その他の割合が高い)。
根拠資料	①全学教授会資料
次年度の課題と改善の方策	引き続き、就職課と連携した進路指導を行うよう、担任に依頼する。

2019年度	人間文化学部
中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	福山大学独自の奨学生制度の他、日本学生支援機構、地方自治体(府県市町村)や財団・企業による奨学金制度もあり、年度はじめのガイダンスでも周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(3学科共通:学生便覧、人間文化学科:入試のしおり、心理学科:学科会議議事録)
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	担任による個別面談の他、学部にハラスメント相談員を置いて相談を受けている。ハラスメント相談員については年度はじめのガイダンスで周知している。また、学部教授会でも教員へハラスメント防止について指示している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学科:掲示板、心理学科:学生便覧、メディア・映像学科:学科会議議事録、学生便覧)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	新入生ガイダンス時に課外活動のメリットを話し、留学や社会貢献活動はリーフレットやメールで情報を発信している。成果が得られた場合は学長室ブログや学科ブログで紹介するほか、学長賞への推薦も行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学科:学長室ブログ、心理学科:学科会議議事録、メディア・映像学科:学科会議議事録)
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

人間文化学部

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	全学的には長期ビジョン委員会の施設・設備部会、研究費等については学部長会で方針が決められている。学部としては毎年の予算申請において、学科会議で要望を聞き取り、学科長会議で調整を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和2年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	3学科ともにICT教室、CLAFIT、図書館を授業等で利用している。メディア・映像学科は1年次からBYODで普通教室でもICT教室と同等の内容で授業を実施している。心理学科は実習・実験施設で心理学実験実習(2年次)、心理学課題実習(3年次)、卒論に取り組んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学科:青木教授のシラバス、心理学科:H31年度シラバス、メディア・映像学科:学科会議議事録)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	バリアフリーとアメニティースペースの確保は、予算要求時に各学科で必要に応じて申請している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した(必要に応じた要求をした)。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の本項目の年度報告(人間文化学科:自己点検評価書(報告編)2-5-③、心理学科:学科会議議事録、こころの健康相談センター運営委員会議事録、メディア・映像学科:学科会議議事録)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	心理学科の29号館移転及びメディア・映像学科の宮地茂記念館での授業など広さと数は適切である。また、ICT教室CLAFIT、アクティブラーニング教室 GLLASS & MILES も整備され活用している。
年度目標	現状を維持。ただし、入学定員に対して超過の続く心理学科については必要な場合は対応を検討する。
年度報告	現状を維持した。心理学科の入学定員超過については、本項目の心理学科年度報告参照。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の本項目の年度報告(人間文化学科:自己点検評価書(令和元年度報告編)2-5-④、心理学科:学科会議議事録、メディア・映像学科:学科会議議事録)
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	学生の安全衛生規程・委員会規程が施行され、福山大学安全管理の手引きが作成された。また、福山大学 人間文化学部 大学生生活における安心安全マニュアルを作成し学生に配布した。
年度目標	危機管理基本マニュアル、自然災害対応マニュアルによる研修を行う。
年度報告	学部としては研修を行った。3学科については現状説明と年度報告のとおり。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	学生の安全衛生規程・委員会規程が施行され、福山大学安全管理の手引きが作成された。この手引きの中に劇物・危険物に関する管理システムについても記載がされている。劇物や危険物があればルールに従って管理する。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学科:福山大学 安全衛生管理の手引き、心理学科:学科会議議事録、メディア・映像学科:学科会議議事録)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	危機管理基本マニュアル、自然災害対応マニュアル、安否確認システムが整備されている。
年度目標	危機管理基本マニュアル、自然災害対応マニュアルによる研修を行い、安否確認システムの100%回答を目指す。
年度報告	危機管理基本マニュアル、自然災害対応マニュアルによる教員研修を行った。全学で実施した避難訓練に参加した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録、②3学科の資料(人間文化学科:安全管理に関するマニュアル、心理学科:学科会議議事録、メディア・映像学科:学科会議議事録)
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 2-6. 学生の意見・要望への対応	
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	大学教育センター学修支援部門や学修支援システムを運用している共同利用センター及び教務委員会・学務部の活動や調査に協力している。
年度目標	現状を維持。
年度報告	現状を維持した。3学科がそれぞれに整備した体制を運用した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学部:教員オフィスアワー表、ゼミシラバス、心理学科:学科会議議事録、zelkovanの学生カルテ(学生相談記録)、メディア・映像学科:学科会議議事録)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	担任の学生とは定期的に面談を行い、心身の健康についても確認している。定期健康診断の受診と、心理面での問題がある場合には保健管理センターを勧めている。また、日々のゼミ活動などでも気になる学生がいれば相談にのるという体制はできている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学部:教員オフィスアワー表、心理学科:学科会議議事録、zelkovanの学生カルテ(学生相談記録)、メディア・映像学科:学科会議議事録)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	各学科では担任による個別面談を通して把握している。問題点がある場合には学科会議、学部教授会で対応している。また、授業評価アンケート等の学生対象の自由記述等からも意見や要望を読み取っている。
年度目標	現状を維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学部:教員オフィスアワー表、ゼミシラバス、心理学科:学科会議議事録、メディア・映像学科:学科会議議事録)
次年度の課題と改善の方策	

基準3. 教育課程**領域：卒業認定、教育課程、学修成果**

2019年度

人間文化学部

中長期計画	学部の将来構想に合わせて教育課程・教育内容を見直す。特に、学部内他学科専門科目16単位と他学部の自由聴講科目10単位、合計26単位の卒業単位数合算の適切性を検討する。また、教職課程は再課程認定に際して、人間文化学部の「英語」、心理学科の「公民」を申請しないこととして、人間文化学部は「国語」「地理・歴史」の教職に重点を置き、心理学科では公認心理師へ重点を移した。その結果、心理学科は公認心理師カリキュラムとの関係で教育課程・教育内容を見直し、教育目的及び3ポリシーの変更、科目名の変更と必要な科目の追加を2018年度入学生から適用するようにした。メディア・映像学科は2016年度に名称変更したため、現在の教育課程・教育内容を維持して学修成果を上げる。なお、福山大学研究ブランディング事業に関し、人間文化学部は「鞆の浦学」の構築に向けて教育内容を検討する。
-------	---

2019年度

人間文化学部

中点検項目 3-1. 单位認定、卒業認定、修了認定	
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーはHPや学生便覧、大学要覧等の紙媒体で周知され、進級・卒業要件の単位数や修得すべき資質に関しては学生便覧に明記、Zelkova上でも取得単位は把握可能である。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(学生便覧、学部HP)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ループリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	大学教育センターの主導の下に各学科で検討し、学部教授会で承認し、評議会で審議している。単位認定基準は教員の案をシラバスチェック等の学科で点検作業を経ている。進級基準は学科会議、学部教授会、評議会で審議し、学生便覧及び大学ホームページへ掲載して周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(学生便覧:3学科の進級・卒業に必要な年次別累積単位数)
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	基準は学生便覧、シラバスに記載し公表している。進級、卒業認定は学科会議、学部教授会、全学教授会で審議している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(学生便覧、新入生・在学生オリエンテーション資料、人間文化学部教授会議事録)
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

人間文化学部

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	3学科、研究科とも、教育目標・学位授与方針に即応したカリキュラム・ポリシーとカリキュラムマップを策定している。学内外には学生便覧、大学案内、HPで公開している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(学生便覧、大学案内、大学HP)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	2016年度、大学教育センター主導のもとに全学で3ポリシーの見直しを行い、学部・学科でも整合性を含めて改訂し、評議会で承認の受けている。したがって、両ポリシー間に一貫性が認められる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	3学科、研究科とも、教育目標・学位授与方針に即応したカリキュラム・ポリシーとカリキュラムマップを策定している。また、科目ナンバー制も導入しより体系的に編成している。
年度目標	現状を維持

年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	大学教育センター共通教育部門の下、検討されて、十分に実施されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(学生便覧、心理学科HP、カリキュラムマップ)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	授業評価アンケート等に基づいて教授方法を検討している。ICTの活用についてはメディア・映像学科を推進役としてBYODを前提とした授業を展開している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。ただし、メディア・映像学科で未実施の計画があった。
達成度	B
改善課題	メディア・映像学科で年度目標未達。
根拠資料	①3学科の資料(シラバス、心理学科:学長室ブログ (https://www.fukuyama-u.com/blog/15769/ , https://www.fukuyama-u.com/blog/17820/ , https://www.fukuyama-u.com/blog/30731/ , https://www.fukuyama-u.com/blog/30216/))
次年度の課題と改善の方策	教授方法についてICT活用を含む工夫・開発のための研修を行う。
点検項目	⑥ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーに基づく資質をもとにしたアセスメント評価を行っている。卒業判定要件の一つである卒業研究についてもディプロマ・ポリシーに基づくループリック評価を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(学生便覧、人間文化学科:卒号論文のループリック評価表、心理学科:学生便覧、メディア・映像学科:学科会議議事録)

次年度の課題と改善の方策	
2019年度	人間文化学部
中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	①全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	評議会で承認された全学、学科、個人のアセスメントポリシーの活用・運用について、その意義を学部教員が認識し、各学科が点検・改善活動へと展開を試みている段階である。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。ただし、2020年3月下旬に、アセスメントポリシーに基づいた学修成果の点検・評価を3学科が行おうとしている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学科:学科アセスメントポリシー表、心理学科:シラバス点検シート、メディア・映像学科:シラバス点検シート)、②大学教育センター運営委員会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	大教センターのアンケート結果を個々の教員が受け取り、教育の改善に役立てている。また、学科長が学科全体の総括を行い、大学HPに公開している。問題がある場合は学科長が対応するが、学部として問題点を共有して改善策を検討するところまでには至っていない。
年度目標	現状を維持
年度報告	3学科が年度目標の達成を目指したが、一部、未達となった。
達成度	B
改善課題	メディア・映像学科で年度目標未達。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	目標の達成状況を定期的に点検する。

基準4. 教員・職員**領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

2019年度

人間文化学部

中長期計画	学部長、学部長補佐、学科長による学科長会議を中心に学部内のマネジメントを実施している。総合大学としての福山大学の一翼を担う人文系の学部として、将来にわたりその役割を果たせるよう、それにふさわしい人员の配置に努力する。メディア・映像学科への名称変更にふさわしい教育内容を検討する。人間文化学科は資格に重点を置いた教育の質保証をめざす。心理学科は2018年度から始まる、国家資格となる公認心理師の養成大学の要件を満たすように教育研究の充実を図る。これらを通して、学部・学科の定員充足に努める。また、設置基準上の人員を確保した上で、各分野で過不足のない人员配置をめざす。とくにメディア・映像学科は映像表現分野のスタッフを少なくとも現状維持する必要がある。人間文化学科は教員免許などの資格に重点を置いた教育が展開できるような教員の配置を維持する。なお、教員の資質向上のために各種研修会への参加奨励、科研費を含めた外部資金獲得による研修推進、海外及び国内の研究機関での長期留学を継続的に実施している。
-------	---

2019年度

人間文化学部

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学校教育法の改正に伴い、学長のリーダーシップが最大限発揮できる組織改編が行われたため、その中で人間文化学部として学部長・学科長が、学長ガバナンスの下に大学の管理運営を遂行するための貢献する意識を持って遂行している。また、要請に基づき、意見を求められた場合には、学部・学科での議論を経て意見を取りまとめている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録、②3学科の資料(3学科の学科会議議事録)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	学部長、学部長補佐、学科長による学科長会議、全学科教員を構成員とする学部教授会を中心に学長ガバナンスの下での管理運営を遂行している。全学の各種委員会に加え、全学の委員会を補間する学部内委員会も設置している。各学科より推薦された委員等を学部教授会で承認し、学部長及び学科長の下、適切に機能させている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	各教員・職員の職位などに基づき全学委員、学部委員に配置し、機能性を高めている。また、委員会等を通じて、学務部、学部事務室等と学部教授会及び学科会議との連携がはかられるよう配置・関係づけられている。職員の業務上の役割の明確化などについては心理学科で記述。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学科:全学委員表、心理学科とメディア・映像学科:学科会議議事録)
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

人間文化学部

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	全学の教員人事手続きに則り、教育目的及び教育課程に即した教員を選考して教授会、評議会で承認を得ている。教員の構成に関しては、年齢、性別ともに運営と継続性を担保できる陣容になっている。職階については設置基準を満たすように昇任を促進するように配慮して指導している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文学部教授会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	評議会で大学設置基準と現在の配置の表が配付され全学的に確認している。心理学科の公認心理師養成大学としての教員数も確保できている。教職課程は2018年度に再認定され、その数を維持している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①評議会資料(採用人事計画)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	学部内にFD委員を2名任命して、学部独自のFDを実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	FD委員の企画により学部独自のFD研修を2回実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

人間文化学部

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	大学で実施されるSD研修への参加を求めている。また、学部内で実施するFD活動への参加も呼び掛けている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した(学部FD委員による企画:危機管理のSD研修、学生指導・留学生指導のSD研修)
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事要旨
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のためにICTの活用を推進していますか。
現状説明	全学委員としてICT関係委員を各学科から選出している。また、PC必携化を全学に先駆けて取り入れてICT活用の推進役となっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 4-4. 研究支援	
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	研究室は確保されているが、研究専念時間は校務が多く確保できない教員もでてきている。個人研究費はランクがあり格差がある。ランクアップには科研費等外部資金の申請と採択が必要条件であるため、学部内に外部資金獲得推進委員会委員を配置して支援している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録、②専任教員における年度実績と年度目標
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	学術研究倫理審査委員会と小委員会であるヒト倫理審査委員会及びそれらの規程がある。そして、2016年度、学部教職員と学生全員に研究倫理教育を実施した。2017年度からは、新任教職員、新入生にガイダンスで実施する。科研費の運用に関し、コンプライアンス推進責任者モニタリング実施要項を定め実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究活動不正防止対策推進室会議資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	過去5年間の研究実績に基づく申請を個人ごとに実施、学部長と学長が個人研究費と学会旅費の査定を行い、規定に基づき配分している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①個人研究費使用状況
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	2015年2月に改訂された「福山大学『研究費ガイドブック』」をもとにコンプライアンス研修会が開催され、周知がはかられた。その後もコンプライアンス推進責任者である学部長が毎年1回研修を実施している。なお、審査機関として「不正防止計画推進室」がある。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究活動不正防止対策推進室会議資料
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

人間文化学部

基準6. 内部質保証

領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2019年度

人間文化学部

中長期計画	人間文化学部自己点検評価委員会を中心に、学部として主体的に活動を行えるような体制を構築する。人間文化学部は収容定員・入学定員が未充足であることから、教育研究活動や学生支援活動以外に学生募集に関してのPDCAサイクルを重視する。2015年度に外部評価を受けた結果、その報告書をHPで公表して、高い評価を受けた社会貢献は継続強化し、特に「鞆の浦学」に関する活動を強化する。将来構想委員会、学科長会議で学生募集に繋がる魅力的な教育・研究・社会貢献活動を検討する。3年間の入学定員充足率を100%にすることを目指す。また、2015年度の外部評価委員の指摘では、学生受け入れに大きな問題はあるが、その問題を解決するために、教育の手厚さ、新たな国際交流、そして、地元から評価の高い社会貢献をより進め、戦略的に情報発信するように指導があった。学部教授会でもこのことを確認して、全教員が団結して教育研究の質を向上させることを目指すこととした。その方法として、科研費等への応募と採択を増やすこと、在外研究を計画的に割り当てること、海外の研究者を受け入れることで質の向上を保証していく。
-------	---

2019年度

人間文化学部

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	全学のシステムに合わせて学部自己点検評価委員会を設置して責任体制を明確にしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①自己点検評価に関する規程(福山大学自己点検評価規定、福山大学人間文化学部自己点検評価委員会細則)
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目		6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。	
現状説明	2014年度に学部自己点検評価委員会が設置され、この委員会を中心に2014年度から自己点検評価を行っている。2016年度からは、自己点検評価のシステムも確立し、学部・学科の課題を検討した。また、外部評価委員の報告書に基づく学部ミニFDも行った。2017年度には日本高等教育機構の認証評価も受け、その結果を共有した。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	A	
改善課題		
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録、②人間文化学部自己点検評価委員会資料	
次年度の課題と改善の方策		
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。	
現状説明	IR担当の学長補佐の下、IR室、IR推進委員会が組織され、全学的な調査、データの収集が行われようとしている。これに協力する。	
年度目標	現状を維持(IR室の指針の下にデータの収集と分析に協力する。)	
年度報告	IRer養成講座等への参加を呼び掛けた。	
達成度	B	
改善課題	データの収集と分析の具体的な活動に協力できていない。	
根拠資料		
次年度の課題と改善の方策	IR室の指針の下、データの収集と分析の具体的な活動に協力する。	

中点検項目		6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。	
現状説明	2014年度に学部自己点検評価委員会が設置され、この委員会を中心に2014年度から自己点検評価を行っている。2016年度からは、自己点検評価のシステムも確立し、学部・学科の課題を検討した。また、外部評価委員の報告書に基づく学部ミニFDも行った。2017年度には日本高等教育機構の認証評価も受け、学生受け入れに関し改善勧告(メディア・映像学科)と努力要望(人間文化学科)の指摘があったものについては情報共有し、一層の学生募集に活かすこととした。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	B	
改善課題	自己点検委員会の下、PDCAサイクルの仕組みは確立されている。しかし、成果の一つである改善状況を踏まえた検証を行うプロセスは不十分である。	

根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	PDCAサイクルの成果の一つである改善状況を踏まえた機能性の検証を行う会議体を準備する。
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	2015年度に全学FD・SD研修で「科研費コンプライアンス研修」が実施され、誓約書を全員が提出し理解度テストを受けて検証した。また、2016年度以降については、学部教職員と学生全員に研究倫理教育を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部_研究倫理教育実施報告 ②コンプライアンス推進責任者モニタリング報告書
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

人間文化学部

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域：「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）

2019年度

人間文化学部

中長期計画	目指す方向として「里山・里海の自然の把握」「里山・里海の資源利用と経済循環」「里山・里海の歴史・文化的理解」「里山・里海のひと・まち・くらしの創造」の4つの研究テーマを設定し、2017年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業には特に「里海」に焦点を当て申請して採択されている。人間文化学部研究ブランディング委員会は「瀬戸内の里山・里海文化の歴史解明と保存・継承に関する研究」に着手している。
-------	---

2019年度

人間文化学部

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	教員には人間文化学部研究ブランディング委員会から「鞆の浦学」に係わる具体的な方策を提示し、学生にも「鞆の浦学」構築に向けた活動を通じてブランディング戦略の浸透を図っている。
年度目標	3学科の学生に周知するとともに「鞆の浦学」構築に向けての活動に参加してもらう。
年度報告	一部の学生の参加に留まっている。他のブランディング研究として神辺周辺にかかる研究を立ち上げた。
達成度	B
改善課題	「鞆の浦学」と菅茶山等の神辺周辺にかかる研究について参加を促しているが、福山大学ブランディング戦略の概略の周知については不十分である。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	各研究への参加を促すための説明会等において福山大学ブランディング戦略の概略も周知する。

点検項目	② 福山大学はプランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からプランディングにどのように取組んでいますか。
現状説明	福山大学プランディングとして、備後地域との密な連携のもとに教育・研究活動を進めているが、その中で「学問のみに偏重しない全人教育」も掲げており、人間文化学部は特にこの観点を重視して「鞆の浦学」「備後学」の構築に取り組んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	活動は現状を維持した。「備後圏域経済・文化研究センター」を構想し、令和2年度からはセンターにおいて経済学部とともにプランディングに関する活動を展開することとなった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(備後圏域経済・文化研究センター規定、同細則、学長室ブログ:心理学科の地域との連携活動の記事)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学プランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	平成27年度外部評価でも高く評価された社会貢献について継続発展させるとともに、協定校との交流を深めてグローバルな人材育成に取り組んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学科:学長室ブログ「交換留学生から見た福山大学」、心理学科:学長室ブログ、メディア・映像学科:活動写真等)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学プランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	平成27年度外部評価でも高く評価された社会貢献について継続発展させるとともに、福山市、広島県との連携事業に関して積極的に教員と学生が協働している。これらの成果は外部自己点検評価、認証評価、学部自己点検評価で検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学科:学長室ブログ、文化フォーラム・人文フェスタのチラシ(学科HP)、心理学科:備後圏域経済・文化研究センター内規、広島県警察本部生活安全部との協働事業契約書、メディア・映像学科:活動写真等の記録)

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学プランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	人間文化学科は「文化フェスタ」、心理学科は「地域安全マップ」「ひなた教室」、メディア・映像学科は「映画上映会」の企画実施や「鞆の浦DeART」参加など学外での地域と関連のある活動を強く奨励している。これらの推奨項目に加え、就職活動やインターンシップへの参加状況等の確認などを学科で評価・検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学科: インターンシップ参加学生表、カリキュラムマップ、心理学科: 卒業生インタビュー、学科HP卒業生マガジン、学科Twitter、メディア・映像学科: 学長室ブログ鞆の浦deアートの記事)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学プランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	平成27年度外部評価でも高く評価された社会貢献について継続発展させるとともに、福山市、広島県との連携事業に関して積極的に教員と学生が協働している。これらの成果は外部自己点検評価、認証評価、学部自己点検評価、学科会議で検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(人間文化学部紀要、学長室ブログ: 心理学科の活動記事、メディア・映像学科の鞆の浦での活動記事)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	人間文化学科は「文化フェスタ」、心理学科は「地域安全マップ」「ひなた教室」、メディア・映像学科は「映画上映会」の企画実施や「鞆の浦DeART」参加など学外での活動を強く奨励している。これらの推奨項目に加え、就職活動やインターンシップへの参加状況等の確認などを学科で評価・検証している。また、学生同士が支え合う「学生サポート制度」を立ち上げ、紐帶性を高める教育に繋げている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①3学科の資料(学長室ブログ:文化フェスタの記事、学生サポーターに関する記事、ボランティア活動に関する記事鞆の浦DeArtの記事)
次年度の課題と改善の方策	
2019年度	人間文化学部
中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	福山大学研究プロジェクトで「鞆の浦学」の構築を進めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	メディア・映像学科を中心とする「鞆の浦」に加え、人間文化学部を中心とする研究プロジェクトの立上げ準備を行った。心理学科の研究内容と瀬戸内の里山・里海学のマッチングの困難さを確認した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部及びメディア・映像学科:福山大学ブランディング事業報告書、研究プロジェクトフォローシート、②人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	福山大学研究ブランディング事業予算を申請して予算化するとともに、科研費、行政や民間の助成金に応募を行う。
年度目標	2020年度予算に要求するとともに、科研費等の外部資金獲得を目指す。
年度報告	外部資金応募が検討される等、獲得に向けて努力した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究プロジェクトフォローシート、②3学科の資料(福山大学ブランディング事業報告書、専任教員による2019年度実績報告書、犯罪心理学を応用した安全・安心まちづくりプロジェクト基金のホームページ)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	関連学会、学内での研究会、大学HPで発表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	連学会、学内での研究会、大学HP、地域内のアート企画等で発表した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科の資料(日本NIE学会第16回鳴門大会の発表要旨集録、心理学科研究者一覧(https://www.fukuyama-u.com/human/psychology/psychology_faculty-member/ 、鞆の浦DeArt活動記録、住総研 研究論文集・実践研究報告集』第46号(2019年版))

次年度の課題
と改善の方策